

群	G10-01
教	
七	平 16,218 集

「道徳の時間」の授業づくり支援の工夫

心を耕す「道徳の時間」の授業構想力を高める

支援資料集の作成と活用を通して

長期研修員 塚越 房江

《研究の概要》

道徳の授業がなかなか思うようにつけれない、授業後の達成感が感じられないという課題を少しでも解決し、生徒一人ひとりの心を耕していく質の高い授業を実践していくために、教師を対象とした道徳の授業構想力を高める支援資料集を開発し、授業実践を行った。本支援資料集は、“資料”と“発問”に重点を置き、「理論編」と「エクササイズ編」の2部で構成した。道徳の授業を構想していく上での基本を学ぶことができるものである。

【キーワード：道徳 中学校 授業づくり 心を耕す 支援資料集】

主題設定の理由

生徒一人ひとりが1回しかない自分の人生をよりよく生きていくことを強く願う。その財産は“心”であると考え。その子どもたちの豊かな心・豊かな人間性の育成の必要性が、今日ほど叫ばれているときはないであろう。

思春期である中学生。自分の夢や希望に向けて努力している生徒、相手の気持ちを考えて行動している生徒、何事もないように明るく振る舞っている生徒などさまざまな生徒がいるが、どの生徒も心の内に大なり小なり何らかの悩みを抱えていると思われる。また、自分の価値観が不確かなために必要以上に不安を抱えたり、解決しなければならぬ問題から逃げてしまう生徒もみられる。そのような生徒たちに道徳教育を通して、人間としてよりよく生きていくための価値観や道徳的実践力を高めていくことが今まで以上に重要になってきていると考える。

この道徳教育の要となる時間が「道徳の時間」であるが、道徳教育の課題の一つとして、「道徳の時間」の量的・質的な確保が挙げられる。「道徳の時間」は人間としてのよりよい生き方についての内容知・方法知の時間である。したがって、生徒の人間としてのよりよい心の成長を促すためには、「道徳の時間」を量的にも質的にも保証しなければならないのである。

年間 35 時間の道徳の授業を行うことは、学校教育法施行規則に定められている。道徳の授業時数は、今回の指導要領の改訂でも削減されなかった。それは「道徳の時間」を中心として生徒の心を育てていくことの必要性があったこともその理由の一つであろう。

しかし、いかに「道徳の時間」が量的に確保されても、生徒の心を耕す質の高い授業が行われなければ何の意味もない。質の高い道徳の授業を行うためには、教師の道徳に対する意識を高め、学校全体で道徳教育に取り組み、ポイントを押さえた授業づくりをしていくことが何よりも重要であると考えた。

また、昨年度、初任者と道徳の授業をつくっていく中で、「道徳の授業づくりの基礎・基本を示した手引き書があればいいのに」という思いを強くもった。資料や生徒の実態などによって、授業の組み立て方は違ってくるが、資料、発問、授業の進め方などのポイントを簡潔でわかりやすく示した手引き書があれば、初任者でも、経験を積んだ教師でも、その手引き書の内容を

基に、授業づくりの基本を押さえながら、生徒の実態に合わせて自分なりにいろいろ工夫した道徳の授業ができるのではないかと考えた。

そこで、本研究では、「道徳の時間」に、生徒一人ひとりの心を耕していく質の高い授業を実践していくための支援として、教師を対象とした「道徳の時間」の授業構想力を高める支援資料集の作成を考えた。この支援資料集を活用して道徳の授業を構想し、授業を行い、振り返る過程を通して、道徳の授業を構想していく上での基本を学ぶことができる。その基本を押さえた授業をP D C Aのサイクルで繰り返して実践していくことによって、生徒一人ひとりの心を耕していく質の高い授業を実践していくことにつながっていくと考え、本主題を設定した。

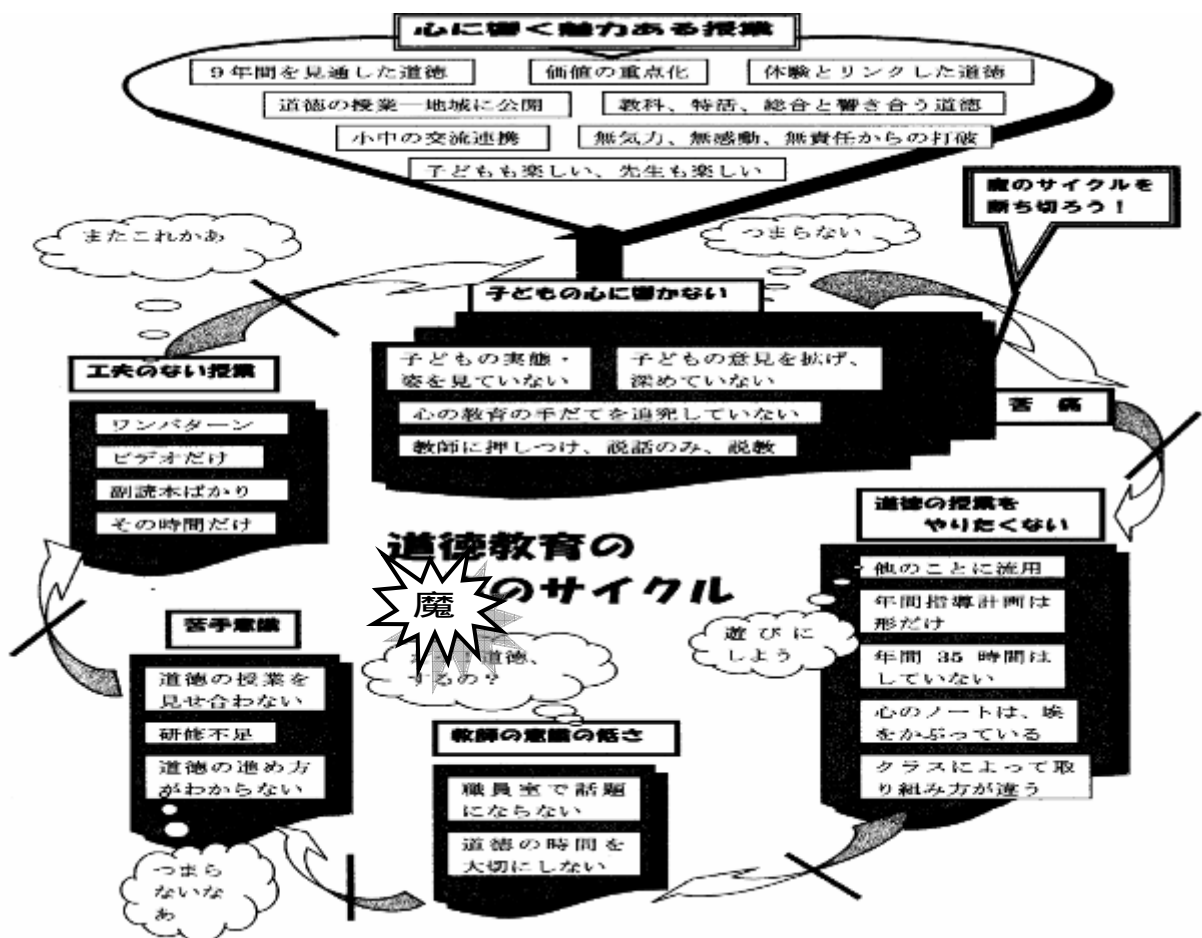
研究のねらい

生徒一人ひとりの心を耕す道徳の授業を構想していく基本を学びながら、教師の思いや生徒の実態に合わせた授業づくりができるようにするために、“資料”と“発問”に重点を置いた、教師を対象とした「道徳の時間」の授業構想力を高める支援資料集を開発し、それが実際に活用できるものであるかを実践を通して明らかにしていく。

基本的な考え方

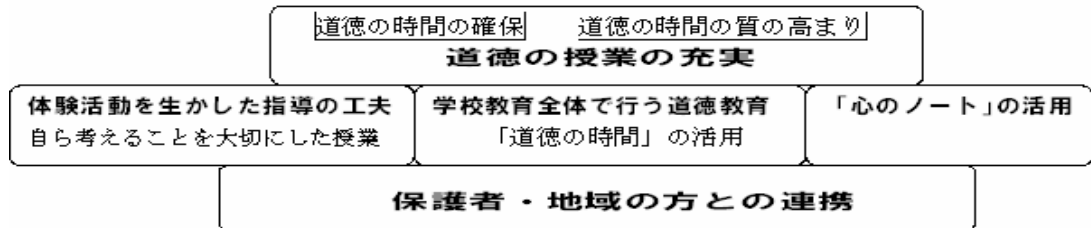
1 道徳教育の課題

(1) 「心に響く魅力ある道徳の授業」を行うための課題



(2) 群馬県の道徳教育の課題

「豊かな人間性」を育むために、道徳教育をよりよいものにしていかなければならない。



上記(1)(2)から、生徒の豊かな人間性を育むためには、何よりも教師の道徳教育に対する意識を高め、生徒の心に響く道徳の授業をしていくことが重要であると考え。そのための具体的な手だてとして、道徳の授業構想力を高める支援資料集を開発した。その支援資料集を活用していくことによって、道徳の授業づくりの基本を学び、その基本を押さえた授業をPDCAのサイクルで繰り返して実践していくことによって、生徒一人ひとりの心を耕していく質の高い授業を実践していくことにつながっていく。そのような生徒の心を耕す質の高い授業を実践していくことによって、“道徳教育の魔のサイクル”を断ち切っていくことができる考えた。

2 心を耕す「道徳の時間」とは

教師がわかりきったタテマエをくどくどと言う押しつけの授業、生徒の意見がタテマエだけで終始してしまう授業や自分にとって関係のないことだと生徒たちが感じる授業。そのような道徳の授業では、生徒の心を耕すことは難しい。

道徳の授業での資料や発問、意見交換を通して、生徒たちは自分自身の内面と向かい合い、自分はどのようにしていくか、自分はどのように生きていくか等について深く考えたり、「こういう弱い心をもっているのは自分だけじゃないんだ」、「なるほど、そういう考え方もあるなぁ」、「こういうふうに前向きに生きている人もいるんだなぁ」というような新たな気づきや深い感動があることによって、生徒の心に深く響いていく。そのような共感、発見、感動、深い思索等のある生徒の心に響いていく授業を繰り返して実践していくことによって、生徒の心が少しずつ掘り起こされ、耕されていくと考える。そのように、人間としてよりよく生きていくために必要な心が、少しずつ耕されていくことによって、やがては肥沃な心の大地となり、豊かな人間性が育まれていくと考える。

では、生徒一人ひとりの心を耕す「道徳の時間」となるためには、何が大切であるか。それは、教師の授業構想力を高めることであると考え。その授業構想力を高めるために、生徒が本気になって考える資料の選定、生徒が自分自身の内面と向かい合い深く考える適切な発問、生徒の思考の流れに即した授業づくりが特に重要であると考え。

3 心を耕す「道徳の時間」の授業構想力を高める支援資料集とは

(1) 「道徳の時間」に対する意識(生徒・教師)－「道徳の時間」に関するアンケート調査(6月下旬に県内の中学校5校で実施)結果から－

生徒の道徳の時間に対する意識

全体の半数以上(55%)の生徒が、「道徳の時間はみんなと話し合う機会があってうれしい」「道徳の時間は、みんなと意見を話せるので楽しい」と感じていることがわかった。

教師の道徳の時間に対する意識

「道徳の授業をすることを楽しみにしている」教師は、全体の30～40%程度であった。その理由として「道徳の授業は、生徒の心に響く発問を考えるのが楽しい。発問に対して予想

以上の考えが返ってくるのが楽しみである。」「道徳の授業は、生徒の本音を引き出す楽しさがある。クラス全体を揺さぶる醍醐味がある。」と答えている。

しかし、その一方で、「生徒の本音を引き出すことが難しい。」「生徒が本音ではなく、教師の期待する答えを言ってしまう。」「資料の与え方や選び方に不安がある。」「生徒同士の話し合いが深められない」「くどくなってしまう」などの理由から、道徳の時間の授業を行うことにためらいを感じている教師も多い。

(2) 「道徳の時間」の授業構想力を高める支援資料集が具備する内容

上記(1)での「道徳の時間」に対するアンケート調査の結果から、道徳の授業をすることにためらいを感じている教師が多くいることが明らかになった。その教師たちが道徳の授業にためらいを感じる理由として、「子どもたちが深く考えるよい資料選びが難しい」「適切な発問を考えることが難しい」どのように道徳の授業づくりをしていけばよいのかが不確かである」という意見が多く出された。そのような道徳の授業に対する教師のためらいを解消していくことが必要である。そのためには、教師の授業構想力を高めることが何よりも大切であると考えた。

上記のアンケート調査の結果から、「道徳の時間」の授業構想力を高めるために、資料の選定、発問、授業構想の3点はその根幹を担っていることがわかった。

そこで、心を耕す「道徳の時間」の授業構想力を高める支援資料集には、授業構想力として下記の3つの力を高めていけるように「理論編」「エクササイズ編」で具体的に記述していく。特に「エクササイズ編」では、実際に資料を活用して授業を構想していくPDCAの過程を体験していくことを通して、下記の3つのことを高めていけるようにした。

資料を活用すること・・・生徒が本気になって考える資料の選定、開発、活用など。
発問を工夫すること・・・生徒が自分の内面と対峙し、葛藤し、深く考える発問の工夫。
授業を構想すること・・・生徒の思考の流れに即し、資料と発問を中心に授業を構想していく力(構造化)。

(3) 「道徳の時間」の授業構想力を高める支援資料集の内容構成の視点について

道徳の授業を行うに当たっては教師の思いや生徒の実態に合った多様な工夫が必要である。この「道徳の時間」の授業構想力を高める支援資料集は、「理論編」と「エクササイズ編」の2部で構成した。

理論編

6月下旬に実施した道徳の時間に関するアンケート調査の結果から「道徳の授業の質を高めるために必要と考えるポイントは何か」という質問に対して、多くの教師が、道徳の授業の質を高めるには、「資料」「発問」「話し合い」「授業の進め方」「教師の説話」のポイントが必要だと答えている。

その結果を踏まえ、授業構想力を高めるポイントを「資料」と「発問」に置き、それぞれについて、Q&A形式で解説していく。

エクササイズ編

多くの副読本に載っている資料を中心に選定した5つの読み物資料を提示し、その資料を用いて、生徒の実態に合わせて授業を構想し、授業実践をし、授業を評価し次の授業にいかしていくエクササイズを5つ設定した。

各エクササイズは、その資料を用いて、生徒の実態に合わせて授業を構想し、評価していきけるような記入欄を設けた。その欄に書き込みながら目の前にいる生徒の実態に合った道徳の授業を構想していけるように工夫するとともに、それぞれの資料を使った資料分析例、授業構想例、指導事例も提示した。それによって、道徳の授業の基本を学びながら、自分の道徳の授業を創っていくことができる支援資料集とした。

また、生徒がより深く道徳的価値について考え、道徳的実践力を身に付けていくには、他の教科、領域と関連させて道徳教育を行っていくことが必要であると考え、各エクササイズ最後に「価値項目の関連」の欄を設け、記載していくこととした。また、平成14,15年度の長期研修員の実践から、価値項目の関連を図った実践例を巻末に示していく。

研究の全体構想図



実践の概要

- 1 「道徳の時間」の授業構想力を高めるために考案した支援資料集について
 - (1) 対象・・・初任者～5年目くらいの中学校の教師を中心に
 - (2) 構成及び内容
 - 理論編・・・エクササイズ編とリンクできるようにする。

質 問 事 項 (Q & A 形 式)	
資 料	「道徳の時間」の授業では、どのような資料が使われていますか？ 「道徳の時間」の授業で用いる資料選びのポイントは何か？ 「道徳の時間」の資料提示には、どのような方法がありますか？
発 問	発問を考えるには資料分析が必要だということですが、資料分析は何を ポイントにしていくのですか？ ねらいに迫るために、どのように発問を組み立てていくのですか？ 具体的には、どのような発問がありますか？

エクササイズ編

エクササイズ 5・・・下記の読み物資料を用いて、授業づくりの手順にしたがって、授業を構想し、実践、振り返り、授業改善をすることによって、授業構想力が高まっていくように工夫した。

エクササイズ	資 料 名	内容項目	ね ら い	対 象
E x 1	6千人の命のビザ	4 - (10)	国境を越えた愛	中学 2・3 年
E x 2	あふれる愛、 マザー・テレサ	2 - (2)	人間への慈しみ	中学 2・3 年
E x 3	足袋の季節	3 - (3)	人間の弱さ・醜さ の克服	中学 1・2・3 年
E x 4	震災の中で	4 - (5)	ともに支え合う	中学 1・2・3 年
E x 5	捨てる神あれば拾 う神あり	1 - (5)	生き方の探求	中学 2・3 年

価値の重点化の実践例・・・平成 14,15 年度の長期研修員の実践から

(3) エクササイズ編を作成する上で工夫した点

資料選定に当たっては、次の点を念頭において行った。

- ・生徒たちに深く考えさせることができ、深い感動を与え、自分自身を振り返る価値のある資料（複数の出版社の副読本に取り上げられている資料を含む）。
- ・教師自身がかつてこの資料を使った授業を受けたり、この資料を使って授業をした可能性の高い資料。（広く読み継がれている資料）
- ・VTRなどの視聴覚補助資料などを併用することのできる資料。
- ・4つの各視点から1つ以上資料を選ぶ。
- ・生徒の実態からこの資料を使って授業をすることが必要だと考える資料。
- ・この資料を使って授業を行うとしたときの生徒の姿が鮮明に思い浮かぶ。

演習で用いた資料を、多くの副読本に載っている資料を中心に選定。

選定する際に、調査した副読本は、下記の5社から出版されているものである。

- ・「中学道徳 明日をひらく」東京書籍
- ・「中学生の道徳 かけがえのないきみだから」学習研究社
- ・「中学道徳 心つないで」教育出版
- ・「中学道徳 きみがいちばんひかるとき」光村図書
- ・「中学生の道徳 私たちの生き方」創育

上記の副読本に掲載されている資料の中から、複数の出版社の副読本に取り上げられてい

る資料及び対象としている学年を洗い出した。その結果は、次ページの表1の通りである。

表1 各出版社の副読本に重複して掲載されている読み物資料及び対象学年

視点	内容項目	資料名	A社	B社	C社	D社	E社
1 対 自 分	(3) 自主と責任 (3) 誠実な生き方 (5) 向上心、個性の伸 長	「父のひとこと」 「デンさん」 「捨てる神あれば、拾 う神あり」	1年 1年		3年 2年 3年		
2 対 他 人	(1) 礼儀の大切さ (2) 温かい心で (2) 人間への慈しみ	「1枚のはがき」 「夜の果物屋」 「マザー・テレサ・あふ れる愛」	2年 2年 3年	3年	2年 3年 2年		1年 2年
3 対 自 然 崇 高	(1) 自然に対する畏 敬の念 (2) 生命尊重 (3) 広い心 (3) 人間の弱さ・醜さ の克服	「樹齢七千年の杉」 「花に寄せて」 「二度と通らない旅人」 「足袋の季節」	 1年 1年 3年	 1年 2年	1年 2年 3年	 2年	3年 3年
4 対 集 団 や 社 会	(1) 役割を果たす (1) 集団と役割 (2) 遵法の精神 (4) 偏見のない社会 (4) 偏見のない社会 (5) ともに支え合う (5) 奉仕の精神 (10) 国境を超えた愛	「マナスル登頂」(山 に憑かれた男) 「わき役の力」 「オーストラリアの マス川」 「わたしのいもうと」 「心のバリアフリ ー」乙武洋匡 「震災の中で」(阪神 淡路大震災関係) 「路のとう」 「6千人の命のピザ」	1年 3年 2年 2年 2年 2年	2年 2年 1年 2年 3年	 3年 3年 3年 3年	 2年	3年 1年 1年 3年 2年

ワークブック形式で、書き込みながら自分の授業が構想できるようにした。

5つの読み物資料を使って生徒の実態に合わせて授業を構想していけるような記入欄を設けた。その欄に記入しながら目の前にいる生徒の実態に合った道徳の授業を構想していけるように工夫した。

道徳の授業づくりの手順を設定し、それにしたがって、資料の内容理解、中心となる価値項目の決定から授業構想図の作成、授業評価、価値の重点化まで、授業のねらいや生徒の実態を考え合わせながら、授業を組み立て、実践、評価が行えるように考えた。

授業のねらい、発問、資料分析、授業構想図、指導案などの具体例を示した。

“例えばこういう授業のねらいや発問(資料分析、授業構想図、指導案)が考えられます”という項を設け、具体的な授業のねらいや発問、資料分析、授業構想図、指導案を例示し、自分の授業を創っていく上での参考になるようにした。また具体例を示すことによって、道徳の授業の基本を学びながら、自分の道徳の授業を創っていくことができると考えた。

価値項目の関連の実践例を示した。

1時間の道徳の授業だけでなく、価値の関連を図って、何時間かの道徳の授業をつなげたり、他の教科、領域での学習と関連を図って総合単元的に授業を行っていくとより効果的であり、日常での道徳的実践に結びついていくと考える。そこで、平成14,15年度の長期研修員の研究から、価値の重点化を図った実践例を示していく。

2 「道徳の時間」の授業構想力を高める支援資料集の有効性の検証

(1) 置籍校での授業実践

授業実践	月 日	読み物資料名	内容項目	授 業 方 法
授業実践	10 / 29 (金)	「6千人の命のピザ」	4 - (10) 国境を越えた愛、	読み物資料 + VTR (杉原千畝の体験)
授業実践	11 / 5 (金)	「あふれる愛、マザー・テレサ」	2 - (2) 人間への慈しみ	読み物資料 + VTR (マザー・テレサの活動内容)
授業実践	11 / 12 (金)	「足袋の季節」	3 - (3) 人間の弱さ・醜さの克服、	読み物資料 + 場面絵
授業実践	11 / 19 (金)	「震災の中で」	4 - (5) ともに支え合う	読み物資料 + VTR (中越地震でのボランティア体験、ちょボラ啓発CM)
授業実践	11 / 26 (金)	「捨てる神あれば拾う神あり」	1 - (5) 生き方の探求	読み物資料 + 校長の体験談 VTR

(2) 「道徳の時間」の授業構想力を高める支援資料集の内容に対する聴き取り調査の実施
広く活用できるような支援資料集とするために、他の教師にこのプログラム集の内容に対する感想や意見を伺い、それをもとに更にその内容等を検討し修正する。

(3) 他の教師による支援資料集に基づいた授業の実施

「道徳の時間」の授業構想力を高める支援資料集の中から、目の前の生徒の実態から必要と考えた資料を選択し、指導案例を参考にしながら授業を構想し、実際に授業をしていただき、その感想や意見を伺い、それをもとに更にその内容等を検討し修正する。

実践の結果と考察

1 「道徳の時間」の授業構想力を高める支援資料集の内容は、教師が実際に活用できるものであるか。

(1) 「道徳の時間」の授業構想力を高める支援資料集の内容に対する感想・意見等の聴き取り調査結果から・・・総合教育センターでの道徳の研修講座参加者(県内の小・中学校の教師)、高崎市内の3中学校の教師から

対象を初任者～5年目の教師を中心としたことについて

「道徳の時間」の授業構想力を高める支援資料集を主に活用する対象を初任者～5年目の教師としたことに対して、次ページの資料1のような回答を得た。中には「初任者から5年目の教員だけでなく、10年以上の教員にも活用できるものである」という感想をいただいた。

資料1 支援資料集の対象に対する聴き取り調査結果

・対象が初任～5年目くらいということですが、10年以上の私自身勉強しなければならぬことがたくさんありました。

活用する対象を初任者から5年目までの教師だけと限定するわけではないが、資料1にあるように「初任の教師から意識をもって取り組み、道徳の授業の基本をしっかりと身につけてほしい」それが、将来に渡ってより多くの生徒たちの心をじっくりと耕していくことにつながっていく

という思いから、初任者～5年目の教師を対象とすることとした。しかし、教職経験の長短には関係なく、この支援資料集は活用していただけるものであると考えている。

「道徳の時間」の授業構想力を高める支援資料集の内容について

「エクササイズ編」での演習は、資料提示から授業構想、授業実践、授業後の評価、価値の関連まで、下記の10の段階（道徳の授業づくり手順一覧）にしたがって授業づくりができるようにした。

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1) 資料を読んで内容を理解する。 | 2) 中心となる価値項目を決める。 |
| 3) 価値項目に関わる生徒の実態を考える。 | 4) 授業のねらいを考える。 |
| 5) 資料分析をする。 | 6) 発問と発問の意図を考える。 |
| 7) 授業構想を考える。 | 8) 授業構想図に基づき、指導略案を書く。 |
| 9) 授業を振り返って、授業評価をする。 | 10) 関連価値とつなげて、組み立てる。 |

「エクササイズ編」の内容について、たくさんの意見や感想をいただいた。その主なものは資料2の通りである。

右の資料2の「中心発問の設定までの流れがわかりやすく、道徳の授業の組み立て方がよく理解できました」、「価値項目をきっちりと設定するところから始まっているので、そのねらいへ向けての発問や流れがスムーズに立てられます。ぜひ活用させてもらいたいと思いました」

また、「授業者が考えたり、目を配ったりしておくべきことも明示されているので、使いやすく勉強になる支援資料集です」、「授業を実践する上での手順がわかりやすくまとめられていて是非試してみたいと思いました」、「この支援資料集を活用することにより授業の構想が立てやすくなると思いました。さらに、ねら

- ・対象はもしかしたらもう少し経験のある方に適するもののような気がします。私自身が1つの資料をどのねらいをもってするかを選択する必要があると実感したのは最近（教職11年目）だからです。また、発問の精選の必要性を感じたのも最近だからです。初任から5年目の時は、道徳の指導を指導書にのっとって行うことが精一杯だった気がします。（塚越）先生がそれではいけないから、初任の人から意識をもって取り組んでほしいという思いをもっているかもしれません。
- ・対象を初任者～5年目くらいとありますが、10年、20年経った教員にも十分役に立つ内容です。

資料2 支援資料集の内容に対する聴き取り調査結果

- ・中心発問の設定までの流れがわかりやすく、道徳の授業の組み立て方がよく理解できました。私のような教職5年目の教員にとっては、とても勉強になるワークブックです。価値項目をきっちりと設定するところから始まっているので、そのねらいへ向けての発問や流れがスムーズに立てられます。ぜひ活用させてもらいたいと思いました。
- ・特に若い先生方（道徳がどうもという）にとっては、研修のよりどころとなる資料であると思います。
- ・私は小学校の教員ですが、授業を組み立てる上での手順がわかりやすく説明してあるので、今後とても活用できると感じました。
- ・資料、指導案付きで、すぐにも授業ができそうな体裁ですし、また授業者が考えたり、目を配ったりしておくべきことも明示されているので、使いやすく勉強になる支援資料集です。
- ・実態、ねらい、資料、扱いなど、とても参考になる内容が書かれているのでたいへん参考になります。今までの道徳の授業を見直すよい資料として活用したいと思います。
- ・授業を実践する上での手順がわかりやすくまとめられていて是非試してみたいと思いました。
- ・1つの教材から授業を組み立てることの難しさを常に感じている自分ですが、このような方法で発問事項を考えたりできるものがあれば、道徳の授業に取り組みやすくなると思いました。一つの方法として利用実践

い、発問、生徒の反応についても記されていることも便利だし、指導事例もあり、参考にしたいと思いました」という意見から、この支援資料集の内容は、教師が実際に活用することができ、道徳の授業づくりを支援する上で有効であると考え。

さらに、「今までの道徳の授業を見直すよい資料として活用したいと思います」、「1つの教材から授業を組み立てることの難しさを常に感じている自分ですが、(中略)道徳の授業に取り組みやすくなると思いました」、「道徳はどのようにしたら生徒の本音を引き出せるのかと悩むところが多く、正直なところ授業が重荷に感じたこともありました。これを機会に考え方を考えていこうと思います」という意見から、この支援資料集を活用していくことは、道徳に対する教師の意識や意欲を高めていくために有効であると考え。

「道徳の授業づくり手順一覧」及び演習項目の左隅に「授業づくり手順一覧での段階」を示したことについて

資料3は、「道徳の授業づくり手順一覧」及び演習項目の左隅に「授業づくり手順一覧での段階」を示したことに対する意見や感想である。それらの意見や感想から、今行っている演習項目が授業づくりのどの段階であるかを確認するために有効であると言える。

エクササイズ編で取り上げた資料について

資料4は、「エクササイズ編で取り上げた資料」に対する意見や感想である。資料4から、エクササイズ編で取り上げた5つの資料は、資料としての価値も高く、例示として適切であると考えられる。

その他に、「あまりパターン化してしまうとどうかとも思います。いかがでしょうか。」という意見も出された。本支援資料集は、道徳の授業づくりをパターン化するのではなく、授業者が自分の道徳の授業を考え、授業実践に結びつけられるように、目の前の生徒の実態に即し、授業者自身の考えを記入していけるような欄を設定した。

上記 ~ の結果と考察から、本支援資料集の対象・内容・道徳の授業づくり手順一覧・エクササイズ編で取り上げた5つの資料は、教師が実際に活用していくのに適切なものであると言える。

していけたらと思います。

- ・この支援資料集を活用することにより授業の構想が立てやすくなると思いました。さらに、ねらい、発問、生徒の反応についても記されていることも便利だし、指導事例もあり、参考にしたいと思いました。
- ・演習の手順に沿って考えていくと授業の構成をスムーズに考えていけると思いました。授業後の評価や他の領域とつなげる時の構成を考えるととても大切なので、そこまである演習であるので、優れていると思います。

資料3 「道徳の授業づくり手順一覧」等に対する聴き取り調査結果

- ・(道徳の)授業づくりの手順一覧は、私たちが授業をする上での基礎基本として活用できるし、演習が一覧のどの位置に当たるかすぐわかるように工夫しているのもよいと思います。
- ・「道徳の授業づくり手順一覧」もよくできていると思います。演習1～5にわたり、資料で、 から実質的に授業づくりに入る過程が、「道徳の授業づくり手順一覧」と対応して示されており、演習を繰り返すなかで、授業づくりの手法が身に付くと思います。
- ・道徳の授業づくり手順一覧は、わかりやすくいいと思いました。常に生徒の実態、中心価値にフィードバックできるので。

資料4 エクササイズ編で取り上げた資料に対する聴き取り調査結果

- ・取り上げられている資料が非常に普遍的なものがあり、共鳴、共感しました。「6千人の命のピザ」「震災の中で」は、特に印象深いものでした。
- ・1～5の資料は、どれもすばらしく、じっくり読めば心を揺さぶられるものばかりです。

(2) 他の教員による支援資料集に基づいた授業実践の結果から

「道徳の時間」の授業構想力を高める支援資料集に示されている資料(「6千人の命のピザ」
「あふれる愛、マザー・テレサ」)使って実際に演習しながら授業を構想し、授業実践を行った方々から、次のような意見や感想が寄せられた。

- ・この支援資料集は、授業を考えていく上で、ポイントを押さえて短時間で授業を組み立てていくことができるように作られており、とても役に立った。道徳の授業はあまり得意ではないのですが、自分の中で何をしっかりと押さえようかと言うことが、よりはっきりとつかめるようになった気がする。
- ・授業づくりの最初に、その資料に含まれている価値項目全てを列挙する作業は、考えを整理していく上で非常に有効であると思われた。
- ・実際の授業の中ではこの発問が鍵を握っていると思う。考えられる発問を書き出すという方法はとてもよかった。その中で中心発問を絞っていくことに時間をかけたが、実際の授業の中で、この作業のおかげで中心発問に対する意見をサポートするための補助発問として準備ができた。
- ・この支援資料集(の授業づくりの手順)にしたがって指導案を立てていくと、自分の中で題材が整理でき生徒にここを考えてほしいという点が絞り込めた。授業の道筋を立てるのにたいへん活用できた。
- ・資料に関連するVTRを準備段階で生徒に見せた。やはり、読み物資料の文章だけでは読みとれないものを視覚的に訴えられるのは効果的だと思った。生徒の真剣なまなざしが印象に残っています。
- ・元気があり活気のあるクラスだが、人の気持ちを考えずに思ったことを言葉に出してしまう生徒がいる(という生徒の実態から)人の気持ちを考えられる生徒になってほしいという願いから、マザー・テレサの資料を使って道徳の授業を実践した。普段は物静かな生徒がしっかりと自分の意見を発表した。その意見は説得力があり、みんな感心して聞いていた。「今の自分にはどのようなことができるかを考えてみよう」という発問では、「募金をして、見えない人を助けよう」「自分のことよりも周りの人に気を遣って生きる」「普段何気なく暮らしていることは本当に恵まれていると実感したので、少くらのことは我慢する」「どんな人にも自分より下には思わない、そういう態度をとらない」という意見が出された。例示されていた発問はとてもわかりやすくよいと思った。授業を振り返るとクラスの生徒の実態から考え、発問は2つに絞ってじっくり意見を出し合い。話し合わせる時間をとった方がよかったと思った。また、今までの道徳の授業や学級経営を振り返る機会となった。

上記の意見から、この支援資料集に基づき授業を構想していくことは、発問を精選し授業の道筋を立てるなど道徳の授業づくりの基本を身につけ、目の前の生徒たちの実態を考えた自分の道徳の授業を創っていく上で有効であると言える。

(3) 「道徳の時間」の授業構想力を高める支援資料集を活用した研修について

この支援資料集は、教師一人ひとりが活用してだけでなく、次のような活用の仕方が考えられる。

学年の教師全員が活用し、全員で相談、検討、共通理解しながら授業を構想し、授業実践していく。互いに磨き合える。

校内研修で活用し、学校の教師全員で授業を構想し実践していく。

あかぎプランやはるなプランの道徳の研修資料として活用し、授業を構想し実践していく。道徳の自主研修の資料の一つとして活用する。

2 「道徳の時間」の授業構想力を高める支援資料集を活用して授業を行うことによって、生徒の心が耕されていったか。

(1) エクササイズ編で取り上げた資料の有効性についての検証

資料についてのアンケート調査の結果(生徒)

次ページの図1は、5時間の授業実践の中で扱った資料の中で「自分が深く考えた資料提示ベスト3」について生徒たちにアンケート調査を行った結果である。

生徒たちは「6千人の命のビザ」「震災の中で」「マザー・テレサ」「捨てる神あれば拾う神あり」「足袋の季節」の順で、資料から深く考えたことがわかった。それは、資料の内容だけでなく、VTRの併用もその大きな要因として考えられる。

「6千人の命のビザ」と「マザー・テレサ」で使ったVTRは、主人公の目線から見た映像や主人公の肉声や豊富な文献資料に基づくものである。「震災の中で」は、新潟県中越地震にボランティアとして活動している阪神淡路大震災での被災体験をもつ20歳くらいの方にインタビューしたVTRとちょボラの啓発CMのVTRの両方を使った。「捨てる神あれば拾う神あり」では、自分のこととして生き方を考えるためには読み物資料だけでは難しいと考え、校長と相談し、校長の体験談をVTRに収めたものを使った。

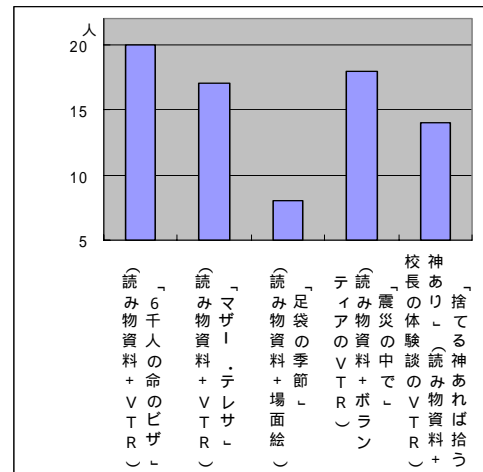


図1、自分が深く考えた資料提示ベスト

さらに「自分が資料から深く考えた理由」として出された意見は次のとおりである。

「6千人の命のビザ」(読み物資料 + VTR)

- ・ビデオがけっこう印象に残ったから。
- ・同じ人間だから助けるのはいいと思ったから。
- ・命をかけてたくさんの人を守ったから。
- ・杉原千畝という一人の日本人が、6千もの人の命を救ったから。
- ・人の命は国が違っても大切だなあと考えたから。
- ・国が違って、人の命は同じでなければいけないんだと思ったから。

「震災の中で」(読み物資料 + VTR (中越地震復興支援ボランティアの方のインタビュー + ちょボラ))

- ・新潟の地震があったばかりだから。
- ・ボランティアの人たちが一生懸命頑張っているから。
- ・最近起きたことだし、自分はそんなことはできないと思って感動したから。
- ・ボランティアの人の思いがよく伝わってきた。
- ・人の役にたつことは大事なことから。
- ・ボランティアのおかげで、人と人とのつながりも街もだんだん復旧していったすごいなあと考えた。
- ・自分もボランティアをしようと思った。

「マザー・テレサ」(読み物資料 + VTR)

- ・ビデオが印象に残ったから。
- ・自分の気持ちを一番よく考えた(見つめた)から。
- ・貧しい人に手を差し伸べ、死を待つ家をつくり、すごいと思ったから。
- ・一人ひとりの命を大切にしていたから。
- ・一人によってたくさんの人々が救われた。
- ・自分のことより他の人のことを考えているのはすごいから。
- ・世界中の貧しい人たちを愛し、支えたマザー・テレサがすごいと思ったから。

「捨てる神あれば拾う神あり」(読み物資料 + VTR (校長の体験談))

- ・生き方を学べた。
- ・何でも一生懸命頑張ろうと思ったから。
- ・あきらめないことは大切だと思ったから。
- ・ほんとうにそうだと同感したから。
- ・小さなことの積み重ねの大切さがわかったから。
- ・一番じぶんにとって近いことだから。
- ・「大きなチャンスは小さなチャンスの積み重ね」というのが心に残った。

「足袋の季節」(読み物資料)

- ・後悔を背負っても人は生きていかなければならない、頑張らなければいけないと思ったから
- ・少年の気持ちがよくわかったから
- ・一生懸命生きていたから
- ・マンガだったから

考察（上記の生徒たちの意見から）

授業実践を行った5つの資料は、生徒が授業のねらいとした道徳的価値を自覚し、人間としてどうすればいいのか、人間としてどう生きていくかについて深く考えることのできる資料であると言える。（上記の「自分が資料から深く考えた理由」のアンダーラインを引いた意見から）

読み物資料だけでなく、VTR資料も活用することは、生徒にその資料の価値の理解を促すために効果的である。

それは、次の事例からも伺える。授業実践 で、「杉原さんはどうしてビザを発行したのだろうか」という問いに対して、「あれだけ多くのユダヤ人が家の前にやって来たのでは、ビザを発行しないわけにはいかない。『この人たちにビザを書かなければ、(目の前にいる)この人たちはナチスに殺されてしまうのかと思ったので、ビザを書いた。』という意見が出された。それは、VTRが杉原千畝さんの目線で編集されていたこともあって、大勢のユダヤ人たちが日本領事館に押し寄せた映像が繰り返し映し出され、大勢のユダヤ人たちがあたかも自分の方に押し寄せてきたかのような臨場感があったので、生徒たちが杉原千畝さんがおかれていた状況を自分のこととして考えることができたからであると考えられる。

(2) 演習編で例示した発問の有効性についての検証

授業実践 ～ での発問と主人公の生き方から考えたことの記述から

	発問	主人公の生き方から考えたこと
授業実践	発問1 「自分が杉原さんの立場だったらどうしますか（ビザを書く・ビザを書かない）？それはどうしてですか？」 発問2（中心発問） 「杉原さんのユダヤ人への接し方や行動から、今までの自分を振り返って、他の国の人々とどう接していくことができるだろうか。」	自分ができる人助けはやりたいと考えた。私も（杉原さんがビデオの最後に「特別なことではない。当然のこととただけです」と言っていたように）“当然のこと”をしたいと思った。 この杉原千畝さんのように、みんなのことを考えられて、一つのことに一生懸命打ち込めれば良いと思った。
授業実践	発問1 「自分が汚れきって悪臭を放っている死にそうな老婆に出会ったとしたら、どうしますか。またその理由は？」 発問2 「マザー・テレサの考え方ってどういうことなのだろうか？」 発問3（中心発問） 「マザー・テレサの「心の飢えた人を救いたい」という言葉から自分にどのようなことができるかを考えよう。」	どんな人でも差別せずに、親切に接する。人のことを考えて、人の心の飢えに気付く、自殺したりする人が一人でもいなくなるようにしたい。 どんなに汚くなった人でも、死にそうな人でも自分のことより先に飢えている人たちを助けているマザーの姿を見て、まずは、マザーの気持ちになって、いろいろな人々に接していきたいと思う。 誰とでも対等に接する。無視をしない。いろいろな人と会話をする。
	発問1 「主人公は「日夜、小さなわたしの心を苦しめた」と言うが、それはどうしてだ	「失敗から学ぶ」を忘れないで、「まあ、いいや」で終わる人生にはしたくないと思った。

授業実践	<p>ろうか？」</p> <p>発問2 「おばあさんの死は、主人公のその後の生き方にどのような影響を与えただろうか。」</p> <p>発問3（中心発問） 「卒業する自分への手紙」(中学校を卒業する自分に向けて、こういうことに心がけて努力していきたいという手紙)を書く。 (「明日からの自分への手紙」の方が適切)</p>	<p>主人公のように、人にしてもらったことを他の誰かにしてあげようと思えたらいいと思った。</p> <p>後悔というのはどれほど苦しいものかがわかった。</p> <p>人のせいにしないで生きていきたい。</p> <p>後悔はしたくないけれど、そこから学ぶことは大きいと思った。</p> <p>優しい心をもって、しっかりとした大人になりたいと思った。</p>
授業実践	<p>発問1 「いろいろ苦情を言われていやになっても、「やっぱりほっておけない」のはどうしてだろうか」</p> <p>発問2 「「わたし」はなぜボランティア活動をしたと思ったのだろうか」</p> <p>発問3（中心発問） 「この体験を通して、つかんだ「人間としてとてもすばらしいもの」とは具体的にはどういうものだろうか。」</p> <p>発問4 「自分が、明日からするとすればどんなボランティア活動ができるだろうか？」</p>	<p>人のために何かをすることはムダじゃないと思った。人は助け合うことが大事。自分はボランティアをして、文句を言われたらすぐむかついてやめたいと思う。ボランティアをできる人はすごいと思った。少しのボランティアでも大切なんだということがわかった。</p> <p>自分でもやろうと思えばできるんだなあと思った。</p> <p>自分にできることはあまりないんだけど、気付いたことがあったら、できる限りしていきたいと思った。</p> <p>身の回りでできることは少しでもいいからやってみたいと思った。</p>
授業実践	<p>発問1 「池田さんが心がけてきた生き方や生きる態度は、どういうことだろうか？また、それはどうしてだろうか？」</p> <p>発問2（中心発問） 「池田さんの生き方と校長先生の話をもとに参考にして、明日から自分はこういうことに心がけて生きていくか考えよう。」</p>	<p>みんな小さなチャンスをもっていることを知った。これからはそれを見逃さないようにしようと思う。</p> <p>どんな小さなことでも全て生かしていかなければ大きなチャンスが来ないのだと思った。これからの生き方を見直すよききっかけになったと思う。</p> <p>どんなときでもいい加減に取り組まない。小さなチャンスを見逃さないということが心に残った。</p> <p>池田さんの生き方から手を抜かずに全力を尽くすということを学んでもう一度自分の生き方を考えて、変えてみたいと思った。</p> <p>全力で取り組むことは大事だと思った。</p>

考察

資料分析をし、発問を精選して組み立てていったことは、生徒たちに主人公の生き方を通して、人間としてどうするか、人間としてどう生きるかについて、自分のこととして深く考えるために有効であったといえるであろう。

(授業振り返りシートでの主人公の生き方から考えたことの記述内容から)

発問を精選し、できるだけ発問の内容と数を絞ったことは、生徒が1つの発問に対して集中してじっくり考えるために効果的であった。

主人公の心に強く共感させ、自分のこととして考えるためには、「主人公にも自分と同じように弱い心があるんだなあ」「ここは自分と同じだなあ」という部分をもっと意識して発問を考えていく必要がある。

(3) 5回の道徳の授業を受けての生徒の意識の変容の検証

5回の道徳の授業を受けて、生徒たちは次のように考えるようになったという。

- ・ いろいろな人の生き方を考えるようになった。
- ・ 考え方が変わり、広くいろいろなことが考えられるようになった。
- ・ これで学んだことをたくさん生かしたくなった。
- ・ どんな人にも対等に接し、プラス思考で生きていきたい。
- ・ 自分中心の考えをしていたけれど、ここに出てくる人たちはみんな人のことも考えられる人たちだった。だから、この人たちのような生き方をしたいと思った。
- ・ 人の気持ちと自分の気持ちを照らし合わせるように考えていこうと思った。
- ・ こつこつ努力、全力で生きる。最後まで一生懸命やる。 ・ 目標を決める。
- ・ いろいろこれからあるけれど、たくさんのことを学んでいきたいと思った。

これらの意見から、「人の生き方を考えるようになった」「この人たちのような生き方をしたい」「どんな人にも対等に接し、プラス思考で生きていきたい」「目標を決める」というように、道徳の授業を通して、自分のこれからの生き方を考えるようになったといえる。

上記(1)(2)(3)から、「道徳の時間」の授業構想力を高める支援資料集に基づき授業を重ねていくことは、生徒が人間としての生き方を考え、少しずつ心を耕していくために有効であると考える。

研究のまとめと課題

「道徳の時間」の授業構想力を高める支援資料集は、教師が生徒一人ひとりの心を耕す道徳の授業を構想していく基本を学びながら、教師の思いや生徒の実態に合わせたより質の高い道徳の授業づくりを支えることができるということが授業実践、他の教師からの聴き取り調査、他の教師による授業実践を通して明らかになった。

「道徳の時間」の授業構想力を高める支援資料集を活用しながら、目の前の生徒の実態に合った自分の道徳の授業を創っていくためには、例えば、道徳の校内研修をする、道徳の授業を校内や地域に公開するなど教師の意識をさらに高めていく手だてが必要である。

主な参考文献

- ・ 『中学校学習指導要領（平成10年12月）解説 道徳編』 文部省 1999年
- ・ 村田盛一著 『人間讃歌の道徳教育 よりよい生き方の創造をめざして-』 日本教育新聞社 2001年
- ・ 月刊『道徳教育』 明示図書 2004年 5月号 “特集/もう一步『発問』で深めよう” より
- ・ 柴原弘志（文部科学省、教科調査官） 『道徳教育についての講演会資料』 2004年
- ・ 永田繁雄（文部科学省、教科調査官） 『道徳教育についての講演会資料』 2004年
- ・ 押谷由夫著 『新しい道徳教育の理念と方法』 東洋館出版社 1999年
- ・ 全国道徳授業実践研究会著 『生きる喜びと感動をよぶ道徳授業の進め方』 1998年 東洋館出版社
- ・ 全国道徳授業実践研究会著 『中学校版 生徒の心に響く道徳授業の進め方』 1999年 東洋館出版社
- ・ 月間『中等教育資料』 ぎょうせい 2004年11月号 “道徳の改善/充実の視点 柴原弘志” より